

# 知識探訪

## 多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

### 人民公正党 (PKR) とマレーシア政治

伊賀司 (名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院特任准教授)



マレーシアのアンワル・イブラヒム首相 (同氏の公式フェイスブックより)

人民公正党 (PKR) は 1990 年代末以降のマレーシア政治の表舞台で主役級の存在感がありながら、これまで研究者からも十分な注目を集めてこなかった。PKR の結党は、1998 年に当時副首相だったアンワル・イブラヒム氏が当時首相のマハティール氏によって汚職と異常性愛の罪で政府・与党から追放され、改革運動 (レフォルマシ運動) を始めたことにさかのぼる。

アンワル氏の逮捕・投獄後のレフォルマシ運動は、アンワル釈放と反マハティール感情を燃料に拡大したが、次第に当時の与党連合・国民戦線 (BN) による統治体制の包括的改革を求める運動へと発展していった。この運動体を基に PKR の前身政党の国民公正党 (PKN) が設立された。

PKN は 2003 年に社会主義政党のマレーシア人民党 (PRM) と合併して現在の PKR となった。PKR は 04 年総選挙で連邦下院議席がわずか 1 議席になった時もあったが、18 年総選挙で 47 議席を獲得して第一党になった。直近の 22 年総選挙では 31 議席を獲得し、PKR が所属する政党連合の希望連盟 (PH) や、連立を組む BN などとともに党首のアンワル氏を首相として与党を構成することになった。

最大の党员数を誇る政党は 339 万人の党员を持つ統一マレー人国民組織 (UMNO) だ。PKR は UMNO に次ぐ 116 万人の党员を持つ。PKR は過去にマレーシアの 13 州全てで 1 議席以上を獲得した唯一の政党で、連邦下院の 222 選挙区全てに支部を持つ唯一の全国政党でもある。

マレーシアの政党は UMNO を筆頭にそのほとんどが民族政党か東マレーシアの地域政党である。多民族

政党を掲げる民主行動党 (DAP) やマレーシア民政運動党 (GERAKAN) も指導層や党员をみれば事実上の華人政党であり、現状ではよくいっても華人系とインド系の非マレー系政党だ。

一方、PKR は多民族政党として自己規定し、所属の連邦下院議員の構成がマレー系、華人系、インド系、サバ州およびサラワク州の諸民族の人口比に近いことで知られている。

私自身は PKR の軌跡を追うことは、マレーシアのこの 20 年余りの政治や社会の変化を理解する上で必須だと考え、最近になって PKR の研究を始めた。PKR について考えるとさまざまな疑問が湧く。

アンワル釈放と反 BN の社会運動からどのように組織政党に発展してきたのか。民族政党や地域政党が主流な中、なぜ多民族政党としての特質を維持できているのか。これまで PKR は頻繁に指導層の離党や分裂を経験してきた (最大の分裂劇は 20 年 2 月の当時副総裁だったアズミン・アリ派の離党) が、なぜ分裂が起こり、どのように勢力を回復してきたのか。

結党時から党のシンボルで最高指導者のアンワル氏と党との関係も興味深い。現在、党総裁のアンワル氏は、1990 年代末以降でいえば、98 年から 2004 年と、14 年から 18 年の 2 度、約 10 年間にわたり投獄されていた。党の歴史の半分近くで事実上の最高指導者を欠いていた状況で PKR が生き残り、勢力を着実に拡大してきたのは驚くべきことだ。

その一方で、特に 20 年の分裂劇以降は PKR 内ではアンワル氏やその家族の影響力が一層強まったとも言われ、PKR がアンワル氏の個人政党あるいは家族政党となりつつあるとの見方も強まっている。アンワル氏が急きょ、政治家を引退したり、政治の表舞台に立てなくなったりすれば、PKR はこれまで通り存続できるのかは、今後の注目すべき点だろう。

私の目下の研究関心は以上のような疑問の答えを探すことにある。なるべく早く研究を進めその成果を出したいと思っている。

#### < 筆者紹介 >

神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了 (博士・政治学)、日本マレーシア学会 (JAMS) 理事。最近の主な著作は「マレーシア UMNO にみる長期与党体制崩壊後の政権不安定化とその原因」(林田秀樹編著『ASEAN の連結と亀裂』晃洋書房、2024 年)、『東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているのか」(日下渉・伊賀司・青山薫・田村慶子との共編著、明石書店、2021 年) など。